

水野廣徳 ひろのり 海軍軍人、軍學評論家。明治八年五月二十四日愛媛縣生れ、昭和二十年十月十八日歿（八五—一九五）。筆名一海軍中佐、無名氏。明治二十一年海軍兵學校卒。日露戦争に從軍。戦後軍令部で日露海戦史の編纂に從事。大正六年大佐、十年豫備役編入後は平松主義の軍學評論家として活動。

著書『波のまじく』（村下直一編、大正六年七月十七日實業之日本社）、『波のつねり』（大正十一年一月、二十日金尾文治堂）、『此一戦』（小笠原長生合著、昭和四年九月十日戦記名著作刊行會「戦記名著作集」）、『戦影』（昭和五年十二月十五日改造社）、『打開の興亡の此一戦』（昭和七年十月十日東海書院）、『此一戦』（昭和八年七月一日新潮社「新潮文庫」）、『血の飛沫』しんぱ（昭和十年四月二十七日香風閣「現代戦争文學全集」）、『日本名將論』（昭和十二年二月九日中央公論社）、『戦争の理論』（合著、昭和十二年十二月一日日本評論社『日本評論』第十一卷第十二號別冊附録）、『軍學時局讀本』（合著・朝日新聞社編、昭和十二年五月二十一日大阪・朝日新聞社）等。

文獻、松下芳母著『水野廣徳』（昭和二十五年七月一日四州社）等。

